

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人堺市文化振興財団
施設名	堺市民芸術文化ホール(フェニーチェ堺)
内定額	18,393 (千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		339	335
年間事業本数（※1）	主催事業	61	57
	公演事業	35	29
	（内、本助成対象事業本数）	13	8
	人材養成事業	2	5
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	普及啓発事業	22	16
	（内、本助成対象事業本数）	10	9
	その他 内容：賑わい創出事業	2	7
	ホールごとの貸館日数	346	363
	ホール名：大ホール 座席数：2000	180	191
貸館日数	ホール名：小ホール 座席数：312	166	172
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	33,581	47,979
	公演事業	16,083	21,535
	人材養成事業	123	3,269
	普及啓発事業	5,441	5,788
	その他 内容： 賑わい創出事業	11,934	17,387
	貸館事業入場者・参加者数	293,404	320,000
	その他 内容： 共催事業	29,980	22,062
	計	356,965	390,041
施設の利用率(%)		84.5%	81.3%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	20	26	17,534	76.0%	0	12	1	7	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	14	17	31,877	87.0%	0	12	0	0	1	0	1
	貸館公演（※3）	839	—	253,354	82.0%	42	461	89	0	20	0	227
	計	873	43	302,765								
令和6年度	主催公演（※1）	20	23	21,535	81.4%	1	10	1	7	0	0	1
	共催・提携公演（※2）	9	20	22,062	81.6%	0	7	0	0	1	1	0
	貸館公演（※3）	973	—	282,413	60.0%	25	511	76	0	23	0	338
	計	1,002	43	326,010								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	川口成彦フォルテピアノリ サイタルシリーズ2024	目標 値	480	80.0%	来場者の満足度	90%	99.3%	昨年度より入場数は減少したものの、堺の文化資源であるヤマモトコレクション(フォルテピアノ)の認知は年々広がっており、目標値への到達まであと一歩である。		
		実績 値	325	54.1%	ヤマモトコレクションの認知度	50%	48.8%			
公-02	THEフェニーチェ文楽	目標 値	480	80.0%	来場者の満足度	90%	96.2%	国立文楽劇場とは少し異なる趣向のものが鑑賞できることから来場者の満足度は高い。三味線発祥の地であることを広めるための工夫を検討したい。		
		実績 値	433	72.1%	三味線発祥の地認知度	50%	13.0%			
公-03	100チェロ コンサート ～ チェロよ、歌え！	目標 値	1,233	80.0%	来場者の満足度	90%	97.0%	来場者、公募の演奏者ともに満足度の高い催しとなり目標を達成。日本では2019年以来5年ぶりの企画ということもあって、新聞や専門誌等にも複数取り上げられたことで発信性の高い催しとなった。		
		実績 値	1,584	90.5%	公募演奏者の満足度	90%	93.1%			
公-04	Dance Power 2024	目標 値	1,454	80.0%	来場者の満足度	90%	96.4%	ダンスに励む、地域の高校生のモチベーションの維持・向上に繋がる良い企画となっている。劇場としても普段来ることが少ない年齢層が鑑賞にも多く来場するため、若年層への劇場の認知度向上に繋がっていると考えている。		
		実績 値	981	53.9%	部活の目標となっていると答える割合	70%	100.0%			
公-05	フェニーチェ堺「第九」コン サート	目標 値	1,454	80.0%	来場者の満足度	90%	94.0%	市民を中心とした公募の記念合唱団を組織し、約5か月間の稽古を経て本番に臨んだ。合唱団の中でのコミュニティも形成され、企画としては良かったと考えている。今後は集客のための取り組みと、初めて参加しようとする人に対するハードルをどう下げていくかが課題である。		
		実績 値	789	43.3%	初舞台となる参加者の割合	30%	2.6%			
公-06	鳳凰亭落語シリーズ(落語 会3公演)	目標 値	720	80.0%	来場者の満足度	90%	95.2%	3公演とも入場者数の目標は達成し、満足度の高い公演となっている。三味線発祥の地であることを広めるための工夫を検討したい。		
		実績 値	847	94.1%	三味線発祥の地認知度	50%	13.0%			
公-07	ナイブ二人形劇場(チェコ)	目標 値	192	80.0%	来場者の満足度	90%	100.0%	初めて海外の人形劇をラインナップに組み込んだ結果、満足度や内容とも地域の人に受け入れられ好評だった。残念ながら海外でのフライト遅延発生のため予定日に実施できず、振替日での実施となり、目標値に到達していたチケット販売数の多数が払い戻しとなり、入場者数は未達となった。		
		実績 値	135	56.2%	未就学児に相応しい内容であると答える割合	70%	100.0%			
公-08	サー・アンドラーシュ・シフ 指揮 カペラ・アンドレア・バルカ	目標 値	1,365	70.0%	来場者の満足度	90%	98.8%	継続している海外オーケストラ等の公演の一つで、市外からの来場者が79.1%となり交流人口の増加と堺の発信に繋がっている。他地域からの来場者は劇場付近での消費行動にも意欲的であり、目標値に近い割合の結果が出たものと考えている。		
		実績 値	1,348	69.1%	劇場付近で公演前後に飲食をした割合	40%	33.6%			
		目標 値								
		実績 値								
		目標 値								
		実績 値								

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	・市外からの来場者割合(アンケート) ・大阪交響楽団が堺の文化資源であることの認知度(アンケート)	・市外からの来場者割合を50%以上にする ・認知度を30%以上にする	・市外からの来場者割合(全8事業の平均)54.3% ・大阪交響楽団が堺の文化資源であることの認知度(第九コンサートでのアンケートによる計測) 56.2%	●事業の企画や内容は、所属する専門人材(舞台技術・制作・広報など)が出演するアーティストや団体、招聘事務所等と企画内容の協議をはじめ、各種の調整に取り組むことで、堺の文化資源などを活用した独自性のあるものとすることができた。 ・当劇場のミッションの一つに「観て聴いて感動する」「賑わいにつなげる」というものがあるため、公演事業はできるだけ京阪神では当劇場だけでしか上演しないものを企画・選択し、市外(周辺地域)からの来場者を多く呼び込むことを目的にしている。ついては、市外来場者を半数以上にし、消費行動を刺激・促進するような劇場周辺の飲食店MAPなどを積極的に配架して、街の賑わいに寄与している。今回の実績値は目標に到達しており、好結果だったと評価できる。 ・加えて、当劇場のミッションには「共につくる」というものもあり、特に大阪交響楽団は劇場と事業協定を締結している地域のプロオーケストラということもあって、そのパートナーの一手である。その大阪交響楽団とは毎年様々な公演を行っているが、5周年を記念する第九コンサートでその認知度を測り、目標値を上回ったことは劇場とオーケストラのこれまでの取り組みの成果だと感じている。今後、当劇場の事業で大阪交響楽団の認知が広がっていくことは、市民にとって大阪交響楽団が更に身近な愛着のある文化資源となっていくことでもあるので、地域の豊かな文化的環境を創出することに繋がると期待している。		
人材養成事業						
普及啓発事業	・普及啓発事業の参加者数(着券数) ・新規来館者数(アンケート)	・全事業の参加者数の割合を80%以上にする ・新規来館者の割合を33%以上にする	・全事業(9事業)の参加者割合 80.36% ・新規来館者数 19.27%	●特に普及啓発事業では、地域の芸術文化団体や個人などと連携して企画を作り上げることとしており、企画制作のスタッフが地域で活躍するアーティストや団体等と企画を検討し、実際の事業として立ち上げているものがほとんどである。 ・普及啓発事業の助成対象となった全事業の参加者割合は80.36%となり、目標値を達成した。多くの来場者を獲得できたことは、地域に密着したニーズの高い企画を提供することができていると評価できる。劇場の活動によって、地域で芸術文化に携わる人々が増えていき、市民の心豊かな生活や文化的環境が整っていくことに繋がっていくと考えられる。 ・普及啓発事業こそが文化芸術の裾野の拡大のための入口となる事業であるため、初めての人でも参加しやすいように、わかりやすい言葉で表現し、入場料を抑えつつ、時間も短めにしたものを多く企画した。劇場としては、多くの新規来館者を期待したものの、現在の普及啓発事業は地域の芸術文化団体が出演することや前回来場して良かったということで、5回以上来られているヘビーリピーターの方が多いことが改めて判明した。この結果を受けて、新規の参加者が増やす更なる工夫を加える必要があることを認識した。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

【公-01 川口成彦フォルテピアノリサイタルシリーズ】 ・川口成彦さんの企画は毎回テーマを絞った、豊かな構成になっているため、来場されていた音楽評論家(女性作曲家の分野にも詳しい方)や一般の方々から、知らなかった女性作曲家に出会えたとお声があった。また、スタッフにとっても聞いたことのない曲を勉強する機会となっており、今後の企画力の向上に繋がっている。
【公-02 THEフェニーチェ文楽】 ・THEフェニーチェ文楽では大阪市内にある国立文楽劇場のレギュラー公演とは少し趣向を変え、本編の前後に芸員らの鼎談や座談会を加えるようにしている。今回は鼎談のゲストを検討する際に複数の候補を制作協力者と協議し木ノ下裕一氏を選択したところ、お客様の声からも「鼎談を聞いてから観ることで登場人物の気持ちや息遣いがストレートに伝わってきて心に残る舞台となった」との評価を複数得ることができた。 ・公演当日の3月1日は人間国宝・桐竹勘十郎師の誕生日ということが鼎談中に披露され、演目の見どころ等だけではなく「フェニーチェ文楽ならではの演者たちのトークが楽しみ」という声がアンケートであった。
【公-03 100チェロコンサート】 ・企画に注目したNHKがドキュメンタリー番組を作成することとなり、イタリア人奏者が堺に滞在した4日間を中心に撮影を敢行し、令和7年6月25日にNHKBBSにて放送されることとなった。 ・開館5周年の記念事業だったこともあり、当劇場のスタッフは1年以上前から招聘事務所と企画調整を行い、6月の一般参加者の公募、10月のチケット販売開始、1月のサテライト事業(映画上映)、3月の本番実施と1年を通じて制作に専念し、企画制作の向上に繋がった。
【公-05 フェニーチェ堺「第九」コンサート】 ・第九と組み合わせるもう1曲の選定にあたって、劇場の制作スタッフが大阪交響楽団の事務局と複数回の打合せを行い、曲の長さ(分数)やホール5周年記念に相応しいと思われる候補曲を複数回聞いて決定に至った。結果、5周年に相応しい「堺」を発信する曲として「古の堺―百舌鳥耳原に寄せる3つの墓碑銘」(嵯峨富美子作曲)を14年ぶりに再演することとなったが、その過程においてのオーケストラ事務局とのやり取りが創造性や企画性の向上に繋がっている。 ・「公式HPより見ることでできたyoutube(ポッドキャスト)により、事前知識などを頭に入れることができ良かった。」というアンケートの回答があり、令和6年度から始めた新しい発信ツールが浸透し始めていることがわかった。
【普-02 文楽セミナー】 ・文楽セミナーの若手の回では、初の試みとして若手芸員を囲んだお茶会交流を一般参加者で行った。すぐ横や向かいに芸員が座り、普段聞けない文楽のイロハや、芸員らの素顔に触れる機会となり、より一層ファンとの絆が深まる企画となった。 ・文楽セミナーの桐竹勘十郎師匠がゲスト出演した回では、次の文楽公演の見どころを人間国宝自らが解説し、来場者がより興味を持って舞台鑑賞できる機会をつくった。
【普-03 音楽のあるひととき】 ・Vol.16「クラシック音楽に出会う春」というテーマに基づき、出演者が音楽に出会ったきっかけをプログラムに掲載したところ、「大阪交響楽団の演奏者個人の人柄がよく解り、演奏者との距離が近く感じられた」とお声があった。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・海外作品の実施公演数(事業計画) ・海外作品に対する来場者の反応	・毎年度2本以上 ・また観たい、視野が広がったと回答する人の割合50%以上	令和6年度 ・「ナイブニ人形劇場」 ・「100チェロコンサート」 ・「アンドラーシュ・シフ指揮カペラ・アンドレア・バルカ」 上記3公演を実施することができた。 ・とても満足、満足(また観たい等)と回答する人の割合は以下のとおり。 ・「ナイブニ人形劇場」・・・100% ・「100チェロコンサート」・・・97% ・「アンドラーシュ・シフ指揮カペラ・アンドレア・バルカ」・・・98.8%	●堺の街は、中世における自由・自治都市であり、南蛮貿易の港として様々な人やモノを受け入れてきた土壌があり、その受け継がれている国際性に視点を向けた事業を実施することができた。 ・「ナイブニ人形劇場」は、チェコ共和国の現代チェコ人形劇を代表する人形劇団のひとつである。特に堺市には在堺チェコ共和国名誉領事館がある所縁もあり関係性が深いため、チェコ共和国の芸術文化団体の公演をジャンルを問わず、できるだけ継続的に実施することを一つの目標としており、その意味でも令和6年度に「ナイブニ人形劇場」の公演を実施できたことは評価できる。 ・「100チェロコンサート」は2012年にローマで立ち上がったフェスティバルで、その後もブダペストやミラノなどで実施され、日本では2019年に東京で開催して以来5年ぶり2回目の実施となった。フェニーチェ堺開館5周年という節目の年に「100チェロコンサート」を開催し、イタリア人チェリスト7名と外国からの一般参加者を含め総勢150名のチェリストを迎え入れ、ステージ上でのパフォーマンスを魅せたことは国際プレゼンスの向上に繋がったと評価している。 ・海外の演奏団体である「カペラ・アンドレア・バルカ」は、現代最高の鍵盤奏者の一人であるサー・アンドラーシュ・シフが普段はソリストや室内楽奏者として世界的に活躍している音楽家たちに直々に声を掛け結成された演奏集団である。その最後のツアーである一角を当劇場で開催できたことは、国際プレゼンスの向上に繋がる取り組みであったと評価できる。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

【公-03 100チェロコンサート】 ・「100チェロコンサート」では、イタリア人チェリスト7人が合計4日間堺に滞在した。公募演奏者150名との本番に向けた稽古が始まる前日には、劇場近辺の商店街での演奏や店舗での演奏などを行い、お店の方や来店者との写真撮影や会話などが弾み、地域との交流を深める場面があった。 ・3日間の稽古中は劇場内の大スタジオを食事会場としたため、ほとんどの参加者が昼や夜の食事時間ごとにアーティストと話したり、写真を撮るなどの交流する時間が生まれ、演奏だけでは得られない経験ができていた。 ・運営のボランティアとして協力してもらった地元アマチュアオーケストラである堺フィルハーモニー交響楽団のメンバーは、イタリア人チェリストや参加者の外国人と片言の英語や身振り手振りでコミュニケーションを楽しんでおり、国際交流の一場面が見られた。 ・イタリア人奏者たちが3日間の一般参加者との交流により、チェロの演奏法などを直接指導する機会ができた。特にジョバンニ・ソツリマ氏から指導を受けたプロ奏者の古澤巖氏(一般参加)は30年以上悩んでいたことが解決した話されていた。 ・フランス、アメリカ、イタリアからの一般参加者もあり、3日間の交流において練習以外の食事会場でのオリエンテーションの場で、積極的な文化交流が盛んに行われた。 ・日本人参加者のチェロが演奏中に破損し、そのリペアを参加者(イタリア人)の父親が行うことによりコミュニケーションが深まった。
【公-07 ナイブニ人形劇場】 ・2歳以上から鑑賞できる、セリフの無い人形劇ということが来場者の興味を引いたようであった。見たことのない外国の人形劇への導入部である入場時に、外国人スタッフが子どもたちに幼児用のかわいいパンフレットを配ることで、親しみを込めたフレンドリーなおもてなしとなり、国際交流の入口となった。 ・公演終了後、お客様と出演者やカンパニーのスタッフとの交流時間を約30分間設けた。来場した親子などと写真を撮影したり、身振り手振りや片言の英語で会話したことで、鑑賞だけでなく劇団と触れ合いが双方にとって有意義な時間であった。未就学児などの小さな子どもは、スタッフと言葉を介さずに人形を通して触れ合うことができた。 ・チェコの現地でナイブニ人形劇を見た方からは堺でチェコの人形劇が見れるなんてうれしいというお言葉や、これからチェコに行くので観に来たという方からとても素晴らしい公演を拝見できてよかった等、口々にお声かけいただいた。また、午前の部を観劇されたお客様が他のお客様に「こんなにすばらしい劇を見ないなんてもったいない」とお話があったと伺った。来場されたお客様のアンケートではとても満足・満足を選択した人が100%となり、素晴らしい鑑賞公演となった。 ・今回、天候不良の影響により海外からのフライトが遅延し劇団の来日が遅れたため、急遽日程を1日順延するというアクシデントに見舞われたが、無事開催することが出来た。このことに関しては、ナイブニ人形劇場のスタッフ、フェニーチェ堺のスタッフ双方が尽力した結果である。終演後、ナイブニ人形劇場のトップから「トラブルに見舞われたが、無事に公演が出来てよかった、ここのスタッフは素晴らしい、ありがとう」とフェニーチェ堺のスタッフ全員に向けて話があった。互いに信頼し連携しながら公演を実施することが出来たことは、日本の「堺」を強く印象づけたと思われる。
【公-08 サー・アンドラーシュ・シフ指揮カペラ・アンドレア・バルカ】 ・海外のアーティストが来館する時は、千利休が育ち「茶の湯」が大成した土地である堺の銘菓を英文の紹介を添え、おもてなしとしてお出ししている。今回はカペラ・アンドレア・バルカのメンバーが、その和菓子を気に入り、劇場スタッフと和菓子を含む地域の魅力について会話が弾み、交流を膨らませることができた。 ・記者会見やインタビューなど、アーティストの生の声を聞ける機会があれば、積極的に参加するように取り組んでおり、12月にシフの記者会見が東京で開かれた際も、参加した当劇場の制作と広報のスタッフはシフのこのツアーやメンバーに対する考えを聞き、そのグローバルな視座や言葉に大変感銘を受け、その後の広報の仕方などを考えるきっかけとなった。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・普及啓発事業における市民の参加者割合(アンケート) ・福祉分野における団体との連携団体数(事業計画) ・子ども対象事業の来場者率(着券) ・SACAYメイト(チケット購入サービス)の登録者数(チケットシステム) ・貸館利用者の満足度(アンケート)	・普及啓発事業における市民の参加者割合72%以上 ・毎年度1団体以上 ・子ども対象事業の来場者率80%以上 ・登録者数の前年度実績より5,000人増 ・貸館利用者の満足度を90%以上	・普及啓発事業(採択9事業)の市民の参加者割合は、56.48%(実績値)となった。 ・福祉分野における団体との連携実績は、「知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム」の実施関連で、国際障害者交流センター(ビッグアイ)をはじめ、堺市発達障がい者支援センター、堺市立健康福祉プラザ(視覚・聴覚障がい者センター)と連携し、来場者への鑑賞サポートを行うことができた。 ・子ども対象事業としては、チェコの「ナイブニ人形劇場」をはじめ、「知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム」「音楽のあるひととき(こども編)」「知る! 楽しい! もっと観たい! バレエの世界」「踊ってみようinフェニーチェ堺」を実施し、それらの来場者率は83.87%(実績値)となった。 ・SACAYメイト(チケット購入サービス)の登録者数の増加は5,976人(実績値)だった。 ・貸館利用者の満足度は98.6%だった。	●堺市にはオーケストラ・オペラ・バレエをはじめ、アマチュアオーケストラ、合唱連盟、吹奏楽連盟と音楽に携わる人が多く、音楽文化が根付いていると考えている。令和6年度もそれらの特徴を活かした事業を実施できている。 ・採択された普及啓発事業のうち、特に市民の参加者割合が50%を下回ったものは、ワカテ文楽の午後公演、演劇ワークショップは4回とも全て、文楽セミナーの1回目の3つである。その他は72%には到達しなかったが、目的としている堺市民に文化芸術を普及させていくという意味では、概ね半数以上の割合で市民の参加があったことで、一定の役割は果たしていると考ええる。なお、演劇ワークショップの市民の参加割合は約23%であったため、次回は市民の参加割合を増やす工夫を試みたい。 ・障がい者の芸術文化活動の促進の一つとして、「知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム」を毎年実施しており通算で4回目となった。実施のための連携団体として国際障害者交流センター(ビッグアイ)から事前のスタッフ研修をはじめ、当日も合理的配慮にまつわる様々なレクチャーを受けて開催している。回を重ねることに要約筆記や手話通訳などの依頼を劇場自ら手配できるようになり、劇場として福祉分野における団体との連携が密になってきている。 ・次代を担う子どもたちへの文化芸術体験の機会を確保するために、子どもたちを対象とした事業や子どもたちが参加しやすい事業を継続できている。6年度は左記の実績値にあげた事業のほか、4歳～18歳を対象とした子ども券を設定した「100チェロコンサート」や市内の高校ダンス部が出演する「Dance power 2024」など児童生徒が参加しやすい環境を整え、目標を達成した。 ・SACAYメイト(チケット購入サービス)の登録者は令和7年4月27日現在で62,035人となった。年間登録者数は目標の5,000人を超えることができ、地域の特性やニーズに応じた事業展開がチケット購入サービスの登録者増加に繋がったと評価できる。 ・貸館利用者の満足度の目標値を達成できたのは、利用終了後のアンケートによって出された要望や苦情などに対して、可能な限り対応していくことで次回以降の満足度の向上に繋がっていることが大きいと考えている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

【公-01 川口成彦フォルテピアノリサイタルシリーズ】 ・2回実施するうちの必ず1回は堺の文化資源であるフォルテピアノマモトコレクションを川口氏に使用してもらうこととしており、川口氏もできるだけ違うピアノを選択してくれていることで、毎年異なるフォルテピアノの音色が聞ける機会となっているため、地域の特色ある事業となっている。 【公-04 Dance power 2024】 ・出演する高校生の総数は247名(11校/16チーム)。そのこともあって、劇場に高校生や中学生とその保護者などが応援するために多く訪れている。普段は公共劇場に足を運ばない年齢層が多く来場するため、若年層に劇場の認知を広げ、憧れをもってもらえる良い機会となっている。 ・出演者アンケートの出場してよかった点として「他校との交流ができ、他校のダンスのいいところを学ぶことができるところ。大会とは違う楽しさがあり、お客さんの反応を見ることができよかった。」「大会とは違い、豪華な照明をつけて作品を沢山の方に見ていただけたところ。他校と一緒にフィナーレを踊れることで、いい刺激を得られた。」「大会とは違って他校の作品もゆっくり楽しんでみることで、また遠方には来ていただきにくい保護者の方にも見ていただけた点。」といったことがあげられた。 ・地元の協賛企業(パーソナルサポート)が、出演者への応援メッセージ動画や来場者からのメッセージボードを制作。観客と出演者を繋げる懸け橋として貢献してくれている。 【公-05 フェニーチェ堺「第九」コンサート】 ・初心者コースからだ合計5か月間の稽古に参加することとなり、知らない者同士が合唱の稽古をきっかけに知り合いとなったことや、上級者が稽古の時間以外に初級者を教えたり、不安点を解消するなどの関係が生まれ、コミュニティの形成となった部分が見受けられた。 ・初心者コースからだと合計5か月間の稽古に合唱の稽古をききかけに知り合いとなったことや、上級者が稽古の時間以外に初級者を教えたり、不安点を解消するなどの関係が生まれ、コミュニティの形成となった部分が見受けられた。 ・合唱参加者の方がその後の公演にご来場、ご参加(演劇WS、蝶々夫人等)いたり、次の年度に「第九は実施しないのか?」と問い合わせをいただき、参加された方々はこの劇場を文化の拠点施設として期待されていることがわかった。 【公-06 鳳凰亭落語シリーズ】 アンケートの回答より、「3年前から三味線を習っていて。その際(堺が三味線発祥の地であること)知りました。三味線人口増えてほしいなあと思っています」「上方だけでなく、今回のように東京の落語家さんも出演してもらえると嬉しいです」という回答が得られた。 【普-01 ワカテoワカレフェニーチェ文楽】 ・アンケートの回答より、「今までは国立文楽劇場での公演ばかり鑑賞していたが、道具とか演者のお話で細かいことが聞け、より身近になりました」「若手を応援してます。若手の出演される機会を増やしていただきますようお願いします。火の見櫓の内側を見せていただき、よく理解できました。若手のトークも面白かったです」という回答を得られた。 【普-03 音楽のあるひととき】 ・地域の文化資源であるプロオーケストラの大阪交響楽団を活用し、どのように地域にクラシック音楽を根付かせていくかという観点からオーケストラ事務局と議論を重ねて演奏メンバーや曲目を考えると、演奏メンバーの人となりを伝えることで親近感が湧く工夫を行っている。 【普-08 大スタジオで楽しむオペラ】 ・地域の文化資源である堺シテオペラを活用し、シテオペラの定期公演のタイトルを使い、ストーリーや人間関係をわかりやすく解説し、聞かれた作曲家の意図なども説明するとともに間近でオペラ歌手の歌声をきいて、オペラに興味を持つように事業を組み立てている。 【普-05 知る! 楽しい! もっと観たい! バレエの世界】 ・地域で積極的に活動する文化団体の一つの野間バレエ団が主催する普及公演「バレエを楽しもう in フェニーチェ堺」と呼応する形で、大人やこどもにバレエに親しんでいたく体験付き「バレエ講座」ということで、「みんな上手で、自分も真似したいと思った」「とても楽しいプログラムで、座っているだけでなく、体験できたことが良かったです」とのアンケートの回答があり、バレエを身近に感じる声が聞かれた。 【普-09 踊ってみよう in フェニーチェ堺】 ・堺市にある関西大学(浅香山キャンパス)の教授や学生と協働することで、大学が取り組む地域連携事業のことも理解が進み、お互いに連携して何ができるかを確認して物事を進めることができた。 ・堺市に転居してきたばかりの親子ペアの参加があり、知らない土地で同世代の親子と出合い交流できるかも期待して参加してくれた。 ・「こどものダンスを通じて知り合って間もない方たちとたくさん接しながら踊ることができ、また大ホールという大きな舞台に立たせていただいて本当に楽しい経験ができました」とアンケートの回答をいただいた。
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・障がい者が参加しやすい事業数(事業計画) ・若年層の利用者数(Uー25チケット販売数) ・子育て世代に向けた事業数(事業計画)	・毎年度1事業以上 ・U-25チケット設定対象事業のチケット販売率30%以上 ・毎年度1事業以上	・障がい者が参加しやすい事業として、「知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム」と舞台上に上がる公募演奏者を障がいの有る無しに関係なく選出した「100チェロコンサート」の2事業を実施した。 ・Uー25チケット設定対象事業として、「フェニーチェ堺演劇解体新書(演劇ワークショップ)」を設定し、若年層への販売率が32.75%となり目標を達成。 ・子育て世代に向けた事業としては、チェコの「ナイブニ人形劇場」をはじめ、「音楽のあるひととき(こども編)」「知る！楽しい！もっと観たい！バレエの世界」「踊ってみようinフェニーチェ堺」の4事業を計画でき、目標を達成。	●開館以来、「積極的な多目的ホール」を標榜していることもあって、音楽以外にも幅広いジャンルの事業を積極的に行い、年齢や障がいの有無など関係なくあらゆる人々が参加できるようプログラムを組み立てており、令和6年度は障がい者や若年層、就学前のこどもなどが参加できる機会を創ることができた。また、ハード面においては、障がい者駐車場(3台)、貸出用車イス(4台)、車イス席(大ホール12席、小ホール4席)や合計19カ所の多目的トイレをはじめ、難聴者用視聴システム(ヒアリングループ)、大ホール固定席の脱着による障がい者席の増席、正面玄関入口等の音声ガイド、点字ブロックやほじょ犬同伴可などを機能として有している。 ・「知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム」では、劇場での合理的配慮として、ヒアリングループの使用をはじめ、イヤーマフなどの備品、クールダウンゾーンの設置などを行い、プログラム上では要約筆記や手話通訳を配置し、鑑賞サポートを行った。また、「100チェロコンサート」では、車イスで参加した外国人に対して、アテンドするスタッフを決め、コミュニケーションを取りながら3日間の稽古と本番を無事に乗り越えることができ、障害のある方でも参加できる安心感をもってもらうことができた。 ・演劇ワークショップでは、若年層の参加を促すためにU-25チケットの設定を行った。予想以上に多くの若者とそのチケットを購入してくれたため、20代の参加者の割合が11/2実施35%、11/3実施47.6%、11/4実施61.1%、3/7実施46.2%となり、幅広い年齢層が参加する活気あるワークショップとなり、目標を達成した。 ・子育て世代に向けた事業では、「ナイブニ人形劇場」は2歳から鑑賞可能な人形劇のため30～40代の親とこどもが多くを占め、「音楽のあるひととき(こども編)」では3歳からできる楽器づくりワークショップがあったため、好評を博した。「知る！楽しい！もっと観たい！バレエの世界」では1回目を小学生と保護者を対象とした内容にしてペアチケットを設置し親子での参加を促し、「踊ってみようinフェニーチェ堺」も同じく親子ペアでのダンスワークショップとし、子育て世代が劇場に来るきっかけとなるプログラム設定ができたと評価している。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

【公-03 100チェロコンサート】 ・公募による参加チェリストの資格は、チェロを奏でる全ての人に門戸を開き、プロ・アマを問わず、学生、子どもや国籍、障害の有無などの決まりは全くなく、数カ月前にチェロを手にした人でも参加可能な催しとした。結果、公募演奏者の最年少の参加者が7歳、最高齢が75歳と幅広く、地域は北海道から鹿児島まで、イタリアをはじめフランスやアメリカからも参加があった。 ・クラシック音楽でのチェロコンサートだけでなく、ロック、ポップスと多彩なジャンルの演奏曲を採用し、多彩かつ多様な客層に幅広く訴求することができた。 ・電動車イスで参加した外国人女性があり、彼女が演奏する姿を見て、勇気づけられたという人がいた。
【公-07 ナイブニ人形劇場】 ・アンケートより、「親子とも楽しませてもらいました。すべてに温かみがあり、良い時間でした」「アットホームな雰囲気で、子どもも声を出して笑っていて良かった」という回答を得られた。
【普-03 音楽のあるひととき(こども編)】 ・アンケートより、「子どもも聞けるコンサートはいくつかありますが、ワークショップとして楽器を作り、演奏するものは珍しく、子どももとても楽しく参加できたのが良かったです」「未就学児でも聴ける生演奏は貴重なので、良かったです」「今回とても興味のある企画で、小さい子でもずっと楽しんで説明もわかりやすく満足です。また大人も一緒に楽しめて本当に嬉しく、良い思い出になりました」「子どもと共に合奏できるカズー作り、子どもたちも楽しんでいました。音楽に触れるいい機会をありがとうございました。」という回答を得られた。
【普-04 演劇ワークショップ】 ・アンケートより、「藤井さんがフランクな雰囲気を作ってくくださったおかげで、初対面同士でも積極的にワークに参加しやすかったです」「年齢や性別、スキルを問わずに参加できる講座なので安心して参加することができました」「普段使わない感覚を初対面の方々と一緒に体感していくのがとても面白かったです」「元氣になりました。演技はしたことが無かったけど、よくわからなかったけど楽しかったです」「4日間本当に楽しく、色んな人と話して、団結して何かを完成させることがこんなにも幸せなことなんだと改めて実感することができました」という回答を得られた。
【普-06 ひるらくご】 ・堺市の高齢者健康増進施策とタイアップして、堺市内在住の65歳以上の方が参加する場合に1回目が入場料無料となる連携を行ない、高齢者の外出の促進と文化芸術のすそ野の拡大に寄与した(無料入場者分のチケット代は市からの補填あり)。 ・アンケートの回答より、「自宅に近いこともあり、よく使わせていただいています。落語やコンサート、オペラなど主婦でも負担のない価格が嬉しいです。メールが来るのが楽しみです。友達を誘ってランチして、そしてフェニーチェへと毎度楽しんでいます」という回答を得られた。
【普-07 知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム】 ・来場者からの声として、「劇場体験プログラム」に参加していた来場者(発達障がい児を持つ保護者)より、フェニーチェ堺で開催されているこのコンサートコンサートに参加するようになってから、他のホールコンサート(障がい者向け対応の公演ではないもの)にも鑑賞・参加できるようになったという感想が届いた。 ・「劇場体験プログラム」の申込者が年々増え、今年は申し込み初日に予定上限枚数に達し、事業企画が広く知れ渡ってきている印象を受ける。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	助成金の獲得に尽力しており、寄付金や協賛金等の獲得に努めるようにしている。	賛助会員制度の構築	賛助会員制度の立ち上げのため、内部での検討や他劇場への聞き取りを行った。	指定管理の協定書には年度決算による剰余金の1/2を納付する項目があるため、協賛金を得た場合にその対象となる恐れがあり、制度構築までには至らなかった。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	公演毎に広報計画を作成し、機を逃さずPRを行う。情報誌を年4回刊行し全体広報に努めている。	SACAYメイト(チケット購入サービス)の登録者数の増加 (目標:5,000人増) ※③の地域文化拠点機能との整合性を図る	SACAYメイト(チケット購入サービス)の登録者数の増加は5,976人(実績値)だった。	SACAYメイトの登録者は令和7年4月27日現在で62,035人。年間登録者数は目標を超え、地域の特性やニーズに応じた事業展開がチケット購入サービス(＝券売)の登録者増加に繋がったと評価できる。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	次年度事業に向けて首都圏の劇場と共同制作を行う。	今後もできるだけ多くの劇場と連携や協力をできる人脈づくりを行う。	他の劇場との連携や人脈づくりに励み、令和7年度には東京芸術劇場、紀尾井ホールとの公演が成立した。	連携や協力、情報交換ができる他の劇場が関西圏だけでなく首都圏にもできたため、効果的で効率的な事業運営を学ぶ機会が広がり評価できる。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	事業継続のための円滑な意思疎通は行っているものの、指定管理者の選定が非公募から公募に変わり、設置者における人材や財源の確保等は期待できない	円滑な意思疎通を継続し、事業の継続や中長期修繕計画の理解を得ていく。	設置者との月毎の定期的な会議のほか、項目を絞った意思疎通を図る協議の場を設け、修繕計画等の理解を進めるための努力を行った。	設置者の担当者が異動していく中、新規担当者の理解を深めるために労を惜みず、粘り強く協議していく意識を持つことを浸透させた。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	統括プロデューサー1名と芸術文化アドバイザー4名を配置している	本体制の維持	本体制の維持	本体制を維持することは、劇場スタッフの専門性の習得にもなり、次のスタッフの育成にも繋がるため、団体として評価できる。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	副館長とマネージャーを配置している	本体制の維持	本体制の維持	本体制を維持することは、劇場の財務体質の健全化やその見通しを立てるためには必要で次のスタッフ育成にも繋がるため、団体として評価できる。		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	運営体制は整備済み。	後進の育成	後進の育成に努めている	現在、必要な専門人材は確保されているが、指定管理期間(10年)を完遂し、次の公募を勝ち取るには後進の育成は不可欠である。研修や日々のOJTの中で育成の意識を常にもっている。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	職位、職能、一般職員の職務内容は専門性を基に整理済みだが、属人的な側面もある	属人的な側面を極力排する。	一部には属人的な業務が残っている。	専門性を基に整理済みだが、一部には属人的な業務が残っており、徐々に改善する方向に動いている。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	若年層の雇用を促進している	雇用した若年層を継続的に雇用できる環境の整備(正規職員化や人件費の確保)	世代間バランスがとれた体制となっているが、継続雇用のための環境整備に努めている。	自治体出資の法人のため、継続雇用には自治体との協議が必要である。環境整備に努めるべく自治体と協議を継続する姿勢である。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性管理職比率が約33.3%である	女性の管理職やリーダー職への登用に努める。	女性の管理職やリーダー職への登用に努め、人事異動はあったものの約33.3%は維持できている。	全体として100人未満の法人だが、女性管理職比率を意識した組織運営と後進の育成は評価できる。		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	育児休暇・介護休暇等の規程は整備済み	専門性が高い職員が休暇取得した場合の代替要員の確保が困難	育児休暇・介護休暇等の規程は整備済みだが、専門性が高い職員が休暇取得した場合の代替要員の確保は依然困難。	全国的にもホールスタッフは不足しているため、専門性が高い職員の代替要員を探すのは容易ではない。その中でコロナ禍の期間のみで導入されたりモートワークの再導入検討は一定の評価に値する。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	各種情報保護規定等は整備済み。今年度よりプライバシーマークの取得申請を行った。	プライバシーマーク認証に定める管理手法を令和5年12月より実施 情報セキュリティに関して外部監査を実施	プライバシーマークを令和6年11月7日に取得でき、特に情報セキュリティに関しては強化した。	情報セキュリティに関しては、より高いリスクヘッジを考え、プライバシーマーク以外にも職員への意識改革を進めていることは評価できる。		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	ハラスメントの防止に関する要綱は整備済み	ハラスメント防止、人権関連の各種研修を実施	ハラスメント防止、人権関連の各種研修を実施	ハラスメント防止、人権関連については、団体としても重要事項と考え、都度研修を含めた意識改革を行っている点は評価できる。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	法人に所属していないアーティスト等とは契約書ではなく、依頼書と承諾書のやり取りになっている。	見積書の作成などアーティスト本人の理解を得ながら、できるだけ多くのアーティストと適正な契約書を交わすこととする。	以前は依頼文書のみでの業務発注だったものを契約書で行うように改善を進めている。	一部にはまだ残存しているものもあるが、できる限り改善しようと進めていることは評価できる。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

●フェニーチェ堺は、堺固有の文化資源を継承し、また堺の新たな文化芸術を創造・発信する場であり、子どもや障害者などのあらゆる人が文化芸術に触れ学ぶことができ、文化芸術を介して市民相互の交流が図られる地域の文化拠点として存在するものである。加えて、独自性のある公演や海外からの招へいを含む多彩な公演を実施し、市外から人を呼び込む大きな役割を担っており、「見て聴いて感動する」「共につくる」「集い交わる」「学び育てる」「触れて知る」の5つを施設のミッションとして、それらをまちの賑いにつなげていくとしている。

●また、フェニーチェ堺の将来像(ビジョン)として、「多くの市民に永く親しまれ、愛され続ける施設」と「市民が誇りを感じる施設」を掲げており、その実現に向けて、令和6年度は、所属する専門人材(舞台技術・制作・広報など)がアーティスト等と一緒に、堺の文化資源を活かした独自性のある次の事業を実施できた。

●公演事業では、「見て聴いて感動する」「共につくる」のミッションを、堺の文化資源等の活用によって劇場のアイデンティティを形成しつつ遂行している。「川口成彦フォルテピアノリサイタルシリーズ(公-01)」では堺のヤマモトコレクション(フォルテピアノ)を活用した。「第九コンサート(公-05)」はフェニーチェ堺の開館5周年を「市民とともにお祝いする」というコンセプトのもと、事業協定を結んでいる大阪交響楽団と主に堺市民で形成した公募合唱団によって実施した。当ホールで練習を約5カ月間実施する過程の中で、歌うことが好きな者同士のコミュニティが形成され、地域文化の拠点機能も果たすことができた事業となった。「THEフェニーチェ文楽(公-02)」「ワカテdeワカルフェニーチェ文楽(普-01)」「ワカル文楽『観る前セミナー』(普-02)」や「鳳凰亭落語シリーズ〈落語3公演〉(公-06)」 「まずはここから！ ひるらくご(普-06)」は、堺を発祥の地とする三味線を活用する事業であった。いずれの事業も、市民が誇りを感じる施設に繋がる事業だったと評価している。「集い交わる」のミッションは、同じく固有の文化資源と言える市内高校ダンス部の公演「Dance Power 2024(公-04)」では高校生同士の交流を、さらに「100チェロコンサート(公-03)」は7名のイタリア人チェリストと市民を含む150人のチェロ愛好家との交流、「ナイブ二人形劇場(公-07)」は、堺と所縁のあるチェコ共和国の人形劇団が地域の親子と交流する場面を創出できた。「カペラ・アンドレア・バルカ(公-08)」は、海外の著名なオーケストラの鑑賞機会を市民をはじめ多くの人に提供するとともに国際プレゼンスの向上に繋がるもので、来場者の79.1%が市外から来訪され、交流人口の増加や市内での消費活動にもつながった。

●普及啓発事業は、「集い交わる」「学び育てる」「触れて知る」というミッションの具現化のために事業を組み立てた。各種の普及型公演やワークショップでは地域の芸術文化団体である、大阪交響楽団との「音楽のあるひととき(普-03)」、野間バレエ団との「知る！ 楽しい！ もっと観たい！ バレエ講座(普-05)」や堺シテリオペラとの「大スタジオで愉しむオペラ(普-08)」と連携・協働して芸術文化の普及の取り組みを進めた。また、若手の技芸員が主役役に配役される文楽公演をはじめ、文楽セミナー、演劇ワークショップも概ね計画通り実施できた。さらに、あらゆる人々が集える劇場として、子どもや障がい者などが劇場にくる機会を増やすための「知的・発達障がい児(者)のための劇場体験プログラム(普-07)」などを実施した。20代の若者が沢山参加してくれた「フェニーチェ演劇解体新書(普-04)」などもプログラムの多様さを示し、「ナイブ二人形劇場(公-07)」は2歳から鑑賞可能な公演で、幼少期から芸術文化に触れるための事業としての成果を得た。

●以上のことから助成対象である「公演事業」「普及啓発事業」の全ての事業がほぼ予定どおりに実施でき、地域の中核劇場として評価できるものとなった。

●また、助成対象事業ではないが、当劇場のビジョンの実現のために、令和6年度の公演事業は海外オーケストラ公演として、「ハンガリー・ブダペスト交響楽団(指揮: 小林研一郎、pf: 亀井聖矢)」、地域の芸術文化団体と共同で行う「大阪交響楽団名曲コンサート(指揮: 山下一史、pf: 牛田智大)」 「テアトロトリニタリオ」を継続するとともに、新たに堺市吹奏楽連盟との共催で「フェニックス吹奏楽」を実施した。普及啓発事業では、「子どもワークショップDAY」「ホール体験会」、人材養成事業では「アートマネジメントセミナー・技術セミナー」を実施し、他館との連携や大阪音楽大学などの大学機関との連携を図り、人材養成事業を軌道に乗せるべく努力を重ねた。一般財団法人地域創造とのホールスタッフ向けの研修事業である「ステージラボ」も実施し、公共ホールの運営における課題などを他ホールのスタッフとともに考える機会をもつことができた。加えて、市の仕様書に基づき、臨接する公園での賑わい事業として、市内のパン屋10店が来店する「パンフェスタ堺2024」や堺東周辺活性化事業として、ホール周辺の「商店街が主催する事業へのアーティスト派遣」「商店街アート展」などを実施し、指定管理者としての役割を果たし、更なる成果をあげた。

●一方で運営面では、令和6年4月からの10年間の指定管理者に選ばれ、今後も地域の文化拠点としての活動が担保されたものの、その第2期指定管理期間では指定管理料が約1億円(主に事業費)ほど減額され、主に5周年にかかる事業実施については法人の積立金などを充当したものもある。

●以上のことから、次年度以降はこれまで築いてきた地域の文化振興とまちの賑わいを牽引してきたホールのブランドを維持し、向上するために自己財源を増やしていく努力が求められている。さらなるチケット販売の向上や、施設稼働率の向上による利用料金収入の増加、寄附や協賛金などの獲得の取り組みを進めていくことが重要と認識している。それらの自助努力とともに設置者の自治体とも円滑な協議を進め、物価スライドの対策等や正規雇用などの体制づくりへの理解を求め、地域の文化拠点を守っていきたい。

・ 所見

